

## 株式市場概況

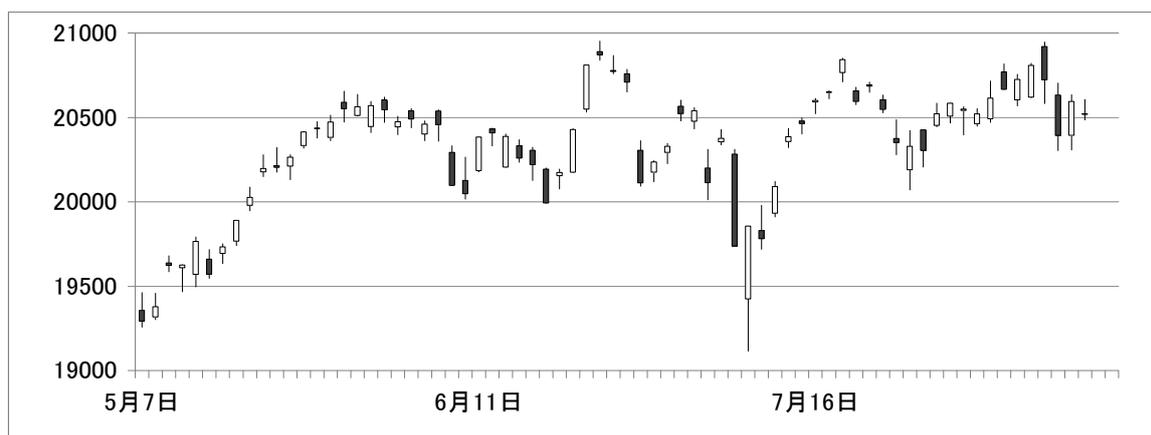
先週の動き（8月10日～8月14日）

前週末発表された米国の7月の非農業部門雇用者数は、21.5万と予想中央値の22.5万人は下回ったが、コンスタントに20万人を超えたことが好感された。米国の景気回復が順調ということで、週明けの日経平均株価は2万1,000円を試す動きとなった。

しかし、8月11日に中国人民銀行が人民元の1.9%の切り下げを発表したことで、相場の展開が一変した。日本の輸出やインバウンド消費に関して悪影響との見方から、日本株は売られ、13日のナイトセッションで日経平均先物は2万40円をつけた。動きが激しくなった理由としては夏休みで閑散としている環境下で、このような大きな方向転換が発表されたことにより、ストップロスやヘッジの売りが一気に出たことが挙げられる。

一旦混乱が収まると、株価は戻す展開となった。週末の日経平均株価は前週末比-0.99%の2万519円で取引を終えた。

## 日経平均株価(2015年5月7日～)



セクター別では、時価総額上位の東レが好決算で上昇した繊維業が上昇率トップとなった。その他にもパルプ紙、建設業など決算が良好だったセクターが買われた。下落率トップは鉄鋼で、中国の通貨切り下げ発表までは戻りを試す動きとなっていたが、中国鉄鋼企業の競争力が増すことが嫌気された。原油価格の下落から鉱業、企業決算の影響からゴムの下げも大きい。

スタイルインデックスは前週と似た動きとなり、グロースが相対的に堅調だった。東証一部の小型は底堅いものの、東証2部、マザーズは弱かった。

表1. セクター、スタイル・インデックス動向

セクター動向(先週末比)			各種国内株式指数動向(先週末比)				
繊維製品	4.68%	鉄鋼	-4.61%	TOPIXスモール	0.30%	TOPIXバリュー	-1.22%
パルプ紙	4.01%	鉱業	-4.09%	ミッド400	-0.37%	TOPIXL70	-1.27%
建設業	2.99%	ゴム製品	-3.82%	TOPIXグロース	-0.53%	コア30	-1.33%
不動産業	2.56%	ガラス土石	-2.76%	TOPIX	-0.88%	REIT指数	-1.50%
その他製品	1.95%	銀行業	-2.75%	日経平均株価	-0.99%	マザーズ	-3.26%
医薬品	1.74%	輸送用機器	-2.72%	東証2部	-1.08%		

---

## 今後の注目点

中国の通貨の切り下げをどのように読み解くかがポイントとなる。

昨年の6月あたりから中国の外貨準備が減少している。これから中国が外貨売り・自国通貨買いを行ない、人民元を高く維持しようとしていたことが読み解ける。つまり中国政府は通貨を高く維持するために、為替市場をコントロールしていたのだろう。そう考えると今回の通貨の切り下げは、中国は通貨の管理を厳しくしたというよりも、実勢に合わせて動くように通貨政策を変えたと見ることも出来る。このように管理を弱めたと見ると、中国の改革は前進していると考えることが出来る。

逆に不安な点としては、あまり通貨価値を引き下げられないという点だ。先週、中国に関して様々な情報が報道されたが、その中で中国企業の外貨建て借入れの多さが気になった。どうも中国企業はドル建てやユーロ建てで借入れを多く行なっているようだ。これは、人民元で借入れるよりも安い金利で外貨を借りてコストを軽減する、いわゆるキャリートレードだ。それが高レバレッジの不動産会社でも行なわれているということだ。

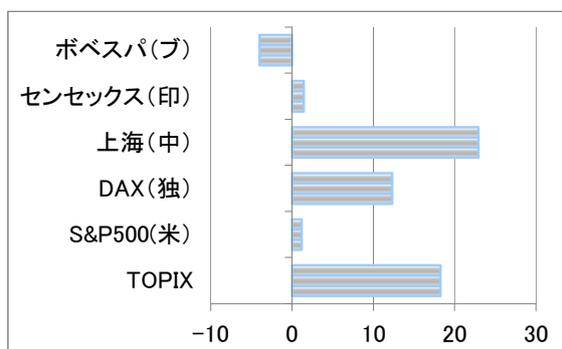
つまり、人民元の価値が下がると、企業の借入れ負担が増大する。そこにはバブルであると見られる不動産も含まれる。ゆえにあまり通貨価値を引き下げると、バブルが弾ける可能性もある。また、それに中国国外の銀行が絡んでいるようなら、その影響が世界中に及ぶリスクも考慮しておきたい。

今週17日に日本の4-6月期のGDPが発表される。実質GDPの予想値は年率で-1.8%となっている。マイナス成長となれば、市場では補正予算期待が高まるだろう。

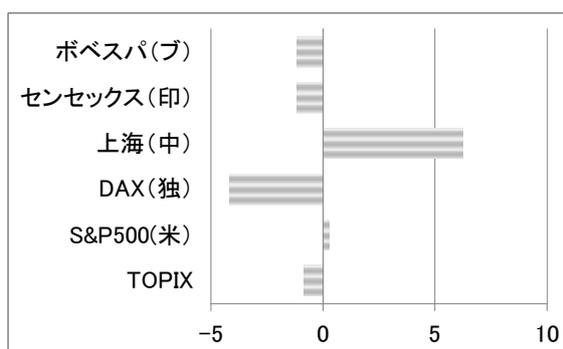
---

## 資料 各国株価動向

年初来上昇率(% 値は14日引け時点)



前週末比(% 値は14日引け時点)



---

## 株式市場需給動向（8月1週：8月3日～8月7日）

8月1週の投資部門別売買動向は、海外投資家が大幅に買い越す一方で、投資信託、個人、信託銀行が売り越した。2万500円以上になると国内から大きく売りが出る展開が続いている。信用買い残高は520億円の減少、裁定買い残高は978億円増加した。

---

### 投資主体別売買動向（2015年8月1週）

	現物(億円)	先物(億円)	差引(億円)
自己	1660.34	-2200.24	-539.90
委託	-1413.78	2329.30	915.52
自己・委託合計	246.56	129.06	375.62
法人	-1448.37	-3972.58	-5420.95
個人	-2503.41	-957.39	-3460.79
海外投資家	2672.00	7310.59	9982.59
証券会社	-134.01	-51.32	-185.33
投資信託	-736.30	-3052.66	-3788.96
事業法人	314.89	-75.79	239.10
その他法人	-11.21	-28.61	-39.83
金融	-1015.74	-815.53	-1831.27
生保・損保	-28.91	19.64	-9.27
都銀・地銀	-79.35	251.45	172.10
信託銀行	-939.20	-1082.21	-2021.42
その他金融機関	31.71	-4.40	27.31

---

(価格データはブルームバーグによる)

光世証券 小川 英幸

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。運用方針・資産配分等は、参考情報であり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。

光世証券株式会社 金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第14号 加入協会/日本証券業協会